

# 令和7年度 伊那市立高遠小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価 (a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
◎教育理念 ◇学即得「高遠の学」の継承・発展 ◇実学を尊び、知行合一を目指す  ◎学校教育目標 清らかで美しくやさしくたくましい 高遠の子ら	笑顔と意欲あふれる授業の創造
	今年度の重点目標
	(1)【知】学びづくり 自ら学びに向かう子の育成  (2)【徳】心づくり 相手の気持ちを考えて動く  (3)【体】体づくり 自分の健康は自分で守る

総合評価		
成果と課題	評価	改善策・向上策
○一時間の授業を大切に、担任だけでなく全職員がチームとなって「笑顔と意欲あふれる授業」を目指して教育活動を行ってきた。多くの児童が学習に意欲的に臨めるようになってきている。学級への所属感やふるさと「高遠」に思いを寄せる子どもの育成を図っていききたい。		
○全学年でAIドリルを活用することで、個々に応じて基礎的な力を伸ばせるようにした。 ○読み書きの力を伸ばすため、1～3年はMIMを中心として基礎的な部分を重点的に取り組んだ。個の力がついてきている。 ○グループ活動で伝え合い聴く機会を多くしたことで仲間の意見を取り入れて考えられるようになってきた。効果的なグループ学習についてさらに考えていきたい。 ○昨年度と比較して総合や生活科では地域に学ぶ活動を取り入れることができた。	A a	○AIドリルの日常的な活用等、ICTを活用した授業への取り組みの推進。 ○低学年を中心にMIMを続け、言葉の基礎的な力を培っていく。 ○総合や生活科では地域に学ぶ活動を各学年で位置づけたい。各学年で学んだ成果を授業参観や発表会等で自ら表現する場を作っていきたい。
○あいさつをしっかりできる子も多いが、相手を意識したあいさつは課題である。自分から誰に対してもできるようにしたい。 ○全校で道徳教育に取り組み、対話を通して、価値観や行動について考えあうことを通年通して行ってきた。なかよし班等他学年との活動も児童会中心に取り入れ、学校全体でまとまりができた。	A a	○あいさつについて、振り返る機会を持つ。(カード記入、学級、児童会等)あいさつのよさ、気持ちよさを感じさせたい。 ○家庭を含め地域全体での呼びかけも依頼し、日常的にあいさつをする機会を増やしていく。 ○さらに道徳の授業を充実させ、互いを思いやる心を育てていく。
○マラソン大会の前は、多くの児童が積極的にマラソンに取り組めた。他の時期での取り組みについては、個人差があった。 ○情報モラル講演会等を通じて、ネットとの付き合い方について学んだ。 ○多くの学年で栽培活動に取り組み、「お弁当の日」では多くの児童がお弁当づくりに積極的に関わられた。	B b	○マラソンへの取り組みが継続的に進めるよう年間通してカードを活用するなどして、一人一人が目標を持てるようにしていく。 ○情報モラルにかかわる指導は、年1で重点的に行う。 ○来年度は全学年で栽培活動に取り組み、地域の方の協力を得ながら食育に取り組んでいきたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育課程		○主体的な関わりや体験を大切にしたい伝え合う授業の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級づくりを中心とした授業改善研究</li> <li>ペアやグループによる対話型の学習</li> <li>児童理解と教材研究</li> <li>学習意欲をかき立てる授業改善</li> </ul>
		○生きる力を育む総合的な学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>高遠を材とした学習</li> <li>循環型食育の推進</li> <li>ICTを活用した学習の推進</li> </ul>
教育活動	学習指導	○基礎基本・読解力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>AIドリルの活用・「高遠タイム」のドリル学習</li> <li>MIMへの継続した取り組み</li> <li>基礎的な力の定着</li> </ul>
		○豊かな心につながる学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>本好きな子を育てるための進徳タイム(10分間読書)と読み聞かせの充実</li> </ul>
生徒指導		○道徳教育の充実 ○人間関係力の育成 ○児童会・なかよし学級での交流 ○感謝の心・豊かな心の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳による自己との対話、自分自身の振り返り</li> <li>学級活動による行動や生活の見直し</li> <li>児童会を中心としたあいさつ活動</li> <li>なかよし班・学級単位の活動充実</li> </ul>
		○健康な体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校体育、体育の授業の充実</li> <li>なかよし班で遊ぶ時間の設定</li> <li>外遊びの奨励</li> <li>運動会、マラソン大会の実施</li> <li>陸上クラブの大会参加</li> <li>スキー教室</li> </ul>
学校運営	安全	○心身の健康を守る意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの心の健康を見つめる職員の支援</li> <li>感染症に対する対応と予防の意識の育成</li> <li>困りごとはすぐに相談できる体制づくり</li> </ul>
		○安心して過ごすための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に配慮した校内環境作り</li> <li>整頓され清掃の行き届いた教室環境作り</li> <li>いじめや暴力を許さない環境づくり</li> </ul>
	地域との連携	○地域の教育力活用	【コミュニティースクールの活動推進】 ・クラブで地域講師、自学塾支援、学校行事・学習支援、農業支援、親子文庫等による読み聞かせ、登下校の安全見守り支援
		○家庭との連携・学校の様子を発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>早寝・早起き・朝ご飯による規則正しい生活リズムの習慣づけ、家庭学習の習慣化、セレクトメディアへの取り組み</li> <li>学年便り・学校便り・ホームページの発行・更新による家庭・地域への発信</li> </ul>

成果と課題	評価	改善策・向上策
○主体的に学ぶために、問題や課題の立て方について工夫してきた。また、ICTの活用も含め、児童が学びたいと思えるような授業の導入、展開を考えた。 ○体験的な学習を取り入れる場面が広がったことで、課題を持ち、主体的に学習に関わる児童が増えた。 ○総合的な学習の時間を軸に、他教科も含めた発展的な学習に取り組めた学年もあった。	B a	○課題を明確にするために、指導要領をもとにしてどんな力をつけたいかを明確にする教材研究を心がけたい。 ○他学年の取り組みのよさを共有できるような授業改善研究を進めていく。 ○単元を限定する形を想定しながら、教科担任制を試みていく。
○iPadを使って、記録を残したり、自分の考えをまとめたり、共有や意見の交換を行ったり、さらにはプレゼンテーションを行ったりと、様々な場面での活用が進んだ。 ○「お弁当の日」の取り組みを進め、食の大切さを学んだ。 ○本年度も給食の残食を減らすことに全校で取り組み、成果を上げた。	B b	○高遠の歴史や地域素材について教材研究し、総合的な学習の中に位置づけたい。 ○市のGIGAサポーターと連携し、来年度もICTに関わる研修会を随時行ったり、研修会に参加したりすることを通してICT機器の効果的な活用について学び、共有していく。 ○米作りや野菜の栽培を各学年で継続する。「お弁当の日」も来年度も継続していく。
○低学年は通年でMIMに取り組んだことで、基礎的な言葉の力がついてきている。 ○4～6年生は算数を2クラスに分けて行った。個別の力を高めることができた。 ○話し合いや発表の場面を多く取り入れたことで、自分の言葉で話せるようになってきている。 ○全国学力・学習状況調査やベネッセの総合学力調査の結果から課題を洗い出し、重点的に取り組むことができた。	B b	○MIMの継続。 ○算数の少人数学習が継続できるような方策を検討していく。 ○基礎の定着を進めるため、AIドリルの活用を進める。 ○学力検査の結果を分析し、課題に重点的に取り組む。 ○グループ学習などを取り入れ、自分の言葉で表現する場を設けていく。
○通年で読書の時間(進徳タイム)を取ったり、読み聞かせをしたり、ビブリオバトルを行ったりすることで、本に親しめるようにしてきた。低学年を中心に多くの児童が図書館に通っている。 ○本好きな子を育てるためのICTの活用も考えていきたい。	A a	○司書と担任が連携を深め、より効果的な図書館の使い方を探っていく。 ○ICTの活用も含めて、本への興味を持てるような活動を考えていく。
○道徳の授業を大事にした。振り返りの中で他の人の考えを知る機会を取った。 ○学級づくりとして、互いの良さを見つめあう場を取ることで、友を大事にする意識が育った。 ○児童会を中心に挨拶運動やなかよし班での活動を行い、楽しみながら挨拶に取り組んだり、自然と異学年が仲良くなれる活動に取り組んだりした。校内では挨拶ができる児童が増え、業間に他学年と関わる児童も増えている。	A A	○児童会のあいさつ活動や各学年のあいさつの取り組みを工夫し、雰囲気を作っていく。 ○引き続き学級づくりとして、互いの良さを見つめあう場を取ることで、友を大事にする意識が育てる。 ○交流の仕方を工夫し、「つながり」を大事にしていく。
○全校体育でコーディネーショントレーニングを取り入れたり、他学年と関わりながら遊ぶ時間を作りだし、楽しみながら体力を向上できた。 ○校庭や体育館、さくらルーム、プレイルームがよく使われ、外で鬼ごっこをしている子たちも多く見られた。学年を超えて一緒に遊ぶ姿が見られた。 ○マラソンカードが励みとなり、意欲的にマラソン大会に臨めた子が多かった。	B b	○来年度も、やり方を工夫しながら集会を実施していく。 ○時には職員も遊びに加わりながら、子どもたちの遊びを見守っていく。 ○朝マラソンについては、どのように活動をしていくのがよいか検討をしていく。カードを使うなど、子どもたちが意識を持ち続けられるような取り組みをしていく。
○連学年会や支援打合せ会等で児童の状態を話題にし、学校全体で児童を支援していく体制を作った。担任だけでなく支援員や養護教諭、職員室の職員も含め職員が一丸となって不安定な子を見守った。少しずつ安定した生活を送れるようになってきた。 ○手洗い等の習慣が付き、感染症への対応の意識も高まっている。食後の歯みがき習慣には課題が見られる。	B a	○放課後など、子どもの話題の中で、良い姿を伝え合う機会を増やしていく。 ○養護教諭などを中心に、感染予防の情報を共有し、児童への声かけや指導を続けていく。児童自らが自分の健康を守る意識を持てるように、予防の重要性を引き続き伝えていく。
○毎月の安全点検をしっかり行い、対処が必要な箇所はすぐに対応してきた。 ○教務会の危機管理委員会を通して、安全に対する意識を高めることができた。 ○生活アンケートや日々のコミュニケーションなどから些細なことでも相談できる人間関係をつくるように心掛けた。	A a	○定期的な安全点検と共に、日直などで回った際に気づいたことを伝え合い、整った環境を維持していく。 ○相互評価、自己評価を意欲的に行う中で、生活の向上を目指していく。
○クラブやお雛子クラブ、自学塾では、地域の方々の熱意や学校への思いが子どもにも職員にも伝わり、熱心に活動できた。 ○3・4年は孤軍高遠城をボランティアの方に指導していただき、運動会で揃った踊りを披露できた。4年は地域のお祭り等にも出演し、年間通して孤軍高遠城をベースに地域を学ぶ学習ができた。	A a	○クラブ等の地域講師は貴重な存在である。連絡を密に取り合いながら、コミュニティスクールの会などでは、子どもの成長の姿を示し、今後も関わっていただけるようお願いしていきたい。 ○地域の教材の開発についても、コミュニティスクールの方々から情報を得ていく。
○連絡帳や電話でこまめに連絡を取り、子どもの様子が保護者に伝わるようにした。 ○学校便り、学年便り等で定期的に発信している。紙面配布からメール配信とした。 ○「セレクトメディアチャレンジ」は定着しつつあり、多くの家庭で取り組んだ。	A a	○子どもの姿がより伝わりやすいものを目指していきたい。 ○大事な連絡は、電話や直接会って話すなど、言葉で伝えることを大事にする。 ○セレクトメディアチャレンジはPTAと連携しながら続けていく。

<b>研 修</b>	○授業改善	・基礎基本を大事にした授業改善研究を念頭に、特に国語科、主として「書くこと」を中心とした学習指導の研究。	○学級づくりについては、Q-Uの分析を行い、児童の心の内を見つめたことで、一人一人を大事にしなが、学級としてまとまりを持たせることができ、落ち着いた生活が過ごせるようになってきている。 ○道徳科で1年を通して全校で実践をした。対話を中心に課題意識を高め、児童にとっても教師にとっても楽しい道徳と目指して重点研究を行った。子どもたち一人一人が課題を持ちながら学習を深めていく過程を研究した。	<b>A a</b>	○引き続き来年度も年間計画の中に研修を位置づけ、計画的に実施していく。 ○本年度の活動の成果を検証し、さらに子どもたちが地域を知り、地域と関わっていかれるような研究をしていく。 ○自分だったらという当事者意識をもって研究に向かえるように話し合いを進めていく。 ○教材やワークシートの共有を行う。
	○自己課題	・「自己課題」を設定し研究・修養に努める。	○互いに授業を見てもらう等、積極的に研究に取り組もうと努力した。 ○ICTを活用した授業や研究に取り組んだ。 ○「高遠石工」「芝平なんぼん」など地域のことを教材化することができた。	<b>B b</b>	○それぞれの職員にとって学びが深まる研究にしていくため、本年度のように自らが課題とすることをはっきりとさせた上で、研究に臨めるようにしていきたい。